

広報 なんこう 南広だより

南但広域行政事務組合

2008
第4号
6.1



あさご芸術の森美術館 インフィオラータあさご

● 2市の概要 (平成20年4月末)

市名	人口(人)	面積(km ²)
養父市	28,419	422.78
朝来市	34,705	402.98
計	63,124	825.76

◎ もくじ

- 南但ごみ処理施設整備委員会 2
- 施設整備基本計画 2~4
- バイオマス施設導入のメリット 5
- 「6月5日は環境の日」です 6
- ごみ処理状況 7
- 南但ごみ処理事業の主な経過 7
- 組合からのお知らせ 8

第2次南但ごみ処理施設整備委員会が発足しました

新たなごみ処理施設の整備にあたって必要な調査、研究、検討を行うため学識経験者2名と両市行政職員9名からなる南但ごみ処理施設整備委員会を平成19年12月に発足しました。平成19年度においては平成15年に策定された施設整備基本計画の見直し作業を集中的に行ってきた。第4回委員会において基本計画がまとまったので、さる5月12日に浦邊委員長から井上管理者（朝来市長）に計画書の報告がなされました。

※詳細関連記事は2く4ページに掲載しています。

また、本年度は事業方式、入札・契約方法等の検討を行います。



南但ごみ処理施設整備委員会

平成20年3月現在

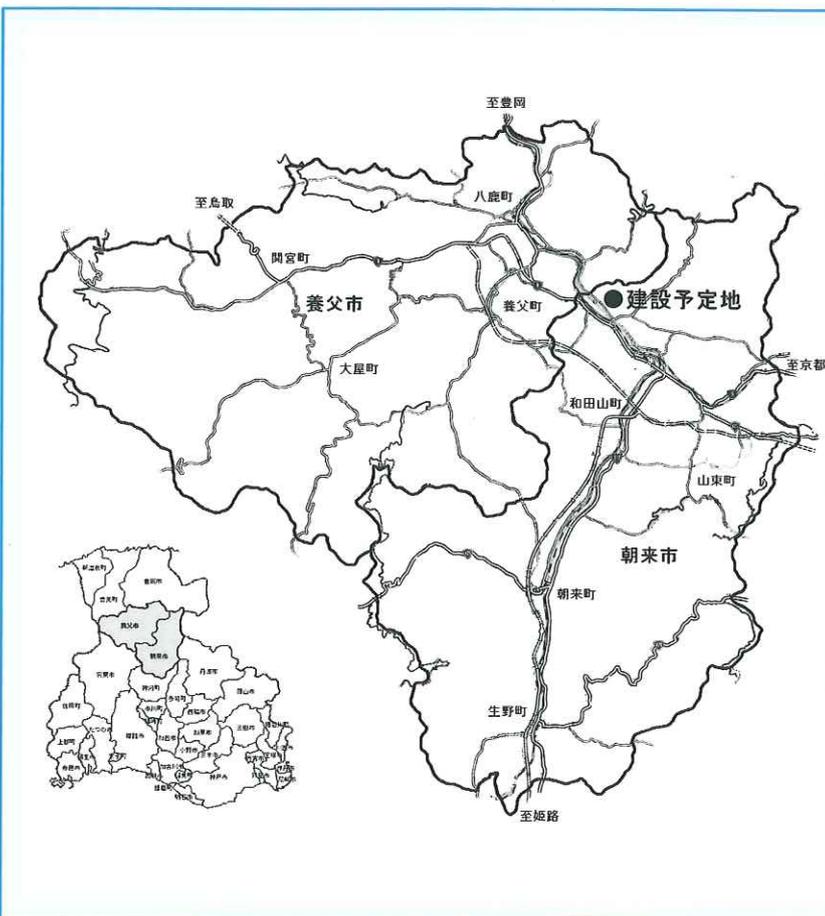
区分	氏名	所属	備考
委員長	浦邊 真郎	学識者	福岡大学大学院工学研究科客員教授
副委員長	和田 金男	養父市	副市長
委員	水谷 聡	学識者	大阪市立大学大学院工学研究科准教授
	田中 敏昭	朝来市	副市長
	村上 昌喜		市民生活部長
	羽瀨 哲博	養父市	市民課長
	米田 栄作		琴弾クリーンセンター所長
	下村 清		市民生活部長
	濱 至	朝来市	生活環境課長
	安井 照光		クリーンセンター朝来事業所長
	安井 弘行		クリーンセンター山東事業所長
	オブザーバー	古川 正文	

南但ごみ処理施設整備基本計画を見直しました

南但ごみ処理施設整備委員会では、これまでの検討結果を整理するとともに、一般廃棄物処理施設のあり方について総合的に検討を行い、施設整備基本計画の見直しを行いました。改定された計画の概要は次のとおりです。

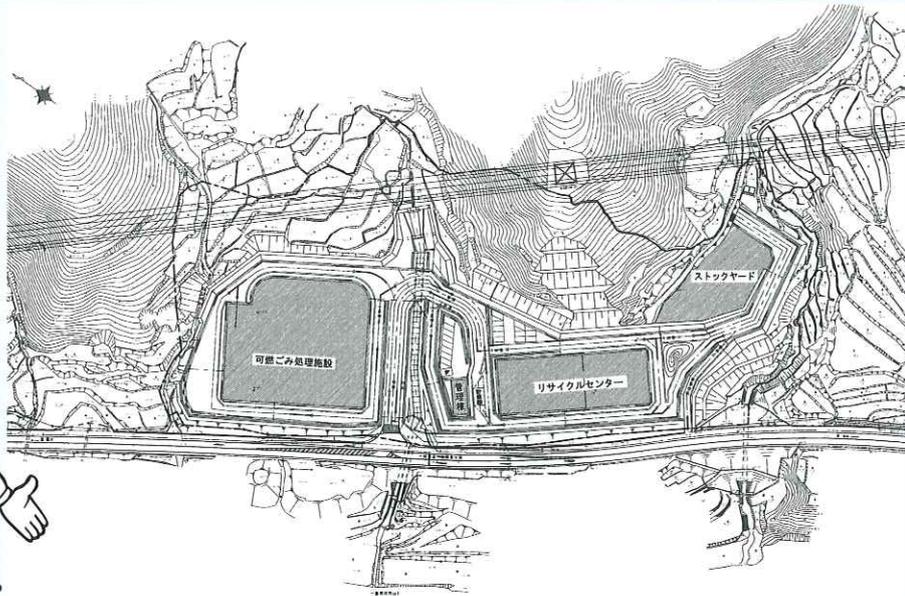
○建設予定地

建設予定地は、養父・朝来市の市境に近い和田山町高田にあり、円山川右岸に位置しています。なお、用地面積は、約3.5haを予定しています。



○整備する施設

可燃ごみをメタン発酵と焼却により処理する「高効率原燃料回収施設」とごみの資源化と啓発、研修を行う「リサイクルセンター」を整備します。



○施設整備の基本理念

施設の整備にあたっては、次のように基本理念を定めています。

周辺環境、地球環境への負荷が小さい施設

法律で定められた排出基準より厳しい自主規制基準を設定し、この基準を遵守できる施設の建設と運営を行います。また、二酸化炭素(CO₂)の排出をできる限り抑制するなど、地球環境への負荷が小さい施設とします。

循環型社会を前提とした施設

天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される循環型社会の形成が求められています。新しい施設は単なる「ごみ処理施設」ではなく、循環型社会の拠点となる施設とします。

ごみを安全に、安定的に処理できる施設

ごみをそれぞれの性状に合わせて安全に、安定的に処理できる処理方式を採用します。また、事故などを起こさないよう、適切な運転管理に努めます。

経済性に優れた施設

ごみの減量とリサイクルを前提とした適切な処理方式、適正な施設規模とするとともに、効率的な運転に努め、経済性に優れた施設とします。

○ごみ処理量

今後は、ごみ処理基本計画、循環型社会形成推進地域計画に基づきごみの減量化を図ることとしています。が、目標年度(平成25年度)におけるごみ処理量は、家庭系14,299トン、事業系3,736トンの合計18,035トンとしており、平成19年度実績と比較すると、合計で約20%の減少となります。

○施設規模

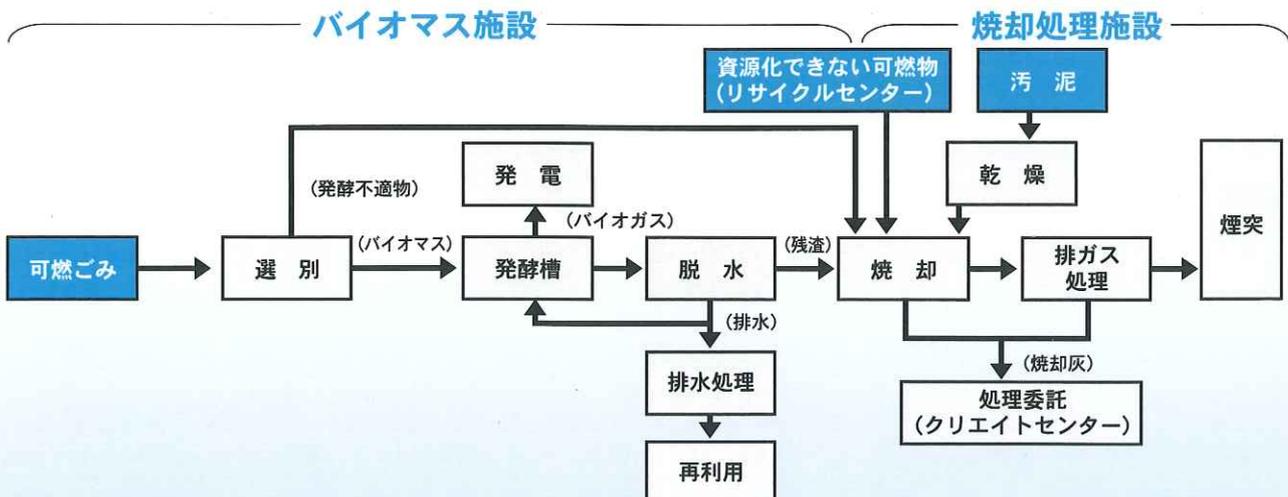
【高効率原燃料回収施設】

バイオマス施設 → 31トン/日
焼却処理施設 → 42トン/日

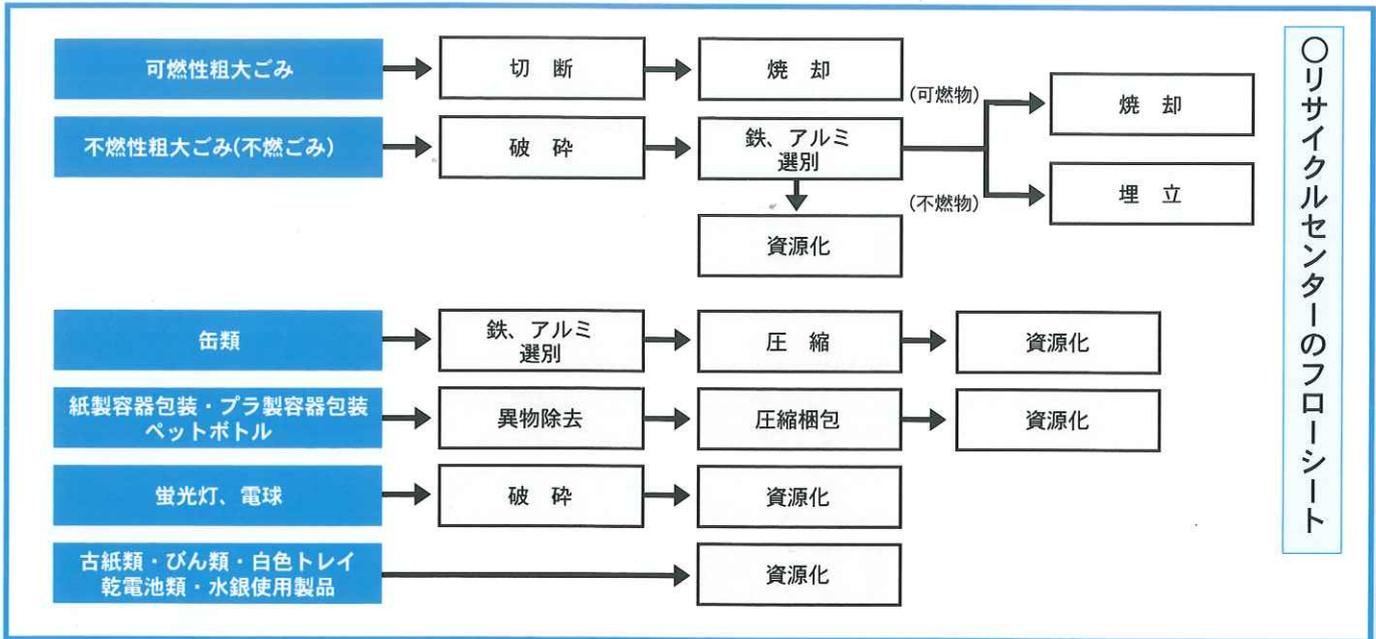
【リサイクルセンター】

→ 19トン/日

○高効率原燃料回収施設のフローシート



○リサイクルセンターのフローシート



○バイオガスの利用

回収したバイオガスは、ガスエンジン等の燃料として利用し、発電を行います。得られた電気は、施設内で利用します。

○余熱の利用

バイオマス施設のガスエンジン等の排ガス、焼却処理施設の排ガスから熱回収し、次のとおり利用します。なお、施設の立地条件から外部への熱供給は行わないことにしています。

○処理水、雨水利用

施設からの排水と生活排水を合わせて処理し、処理水は、焼却処理施設のガス冷却水として全量再利用することにより、外部へ放流しません。また、敷地内に降った雨水もできる限り用水として利用します。

○啓発研修施設

リサイクルセンターには、啓発・研修を行うための次のような施設も整備します。なお、これらの施設の運営にあたっては、リサイクル活動を行っている各種団体などの活用を図ります。

バイオマス施設の余熱 ⇒ 発酵槽の加温、汚泥の乾燥
 焼却処理施設の余熱 ⇒ 給湯、スチーム洗車
 燃焼用空気加熱
 触媒用空気加熱
 (暖房、融雪、白煙防止)
 ※ () 内は冬季のみの利用

多目的室 ⇒ 家具、自転車などの修理・再生
 リサイクル体験学習
 情報室 ⇒ 啓発・学習、情報提供、再生品展示
 研修室 ⇒ 小学生の社会学習、環境学習、
 研修、会議
 フリースペース (屋外) ⇒ フリーマーケット
 各種イベント

○事業スケジュール

項目 / 年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
諸手続き・調査・設計等	■	■	■				
造成工事			■	■			
高効率原燃料回収施設建設工事				■	■	■	
リサイクルセンター建設工事				■	■	■	
既設焼却炉の解体・撤去							■
ストックヤード建設工事							■

施設整備基本計画の全文、概要版については南但広域行政事務組合ホームページに掲載しています。
 (URL : <http://www.fureai-net.tv/nantankoiki/>)

バイオマス導入のメリット 「なぜバイオマスなの？」

○バイオマスとは

生物により自然循環の中で作られた再生可能な資源であり、燃焼しても二酸化炭素を増加させないという特性があります。代表的なものに、家畜排泄物、生ごみ、木くず、もみから、下水汚泥などがあり、利用方法としては、飼料、堆肥、燃焼による熱回収、燃料化（メタン発酵、バイオディーゼル）などが考えられます。

南但では、このうち生ごみ、紙類などを対象としたメタン発酵を計画しています。

○メタン発酵の仕組み

生ごみなどのバイオマスを空気（酸素）のない状態にすると、微生物による分解、発酵が起こり、バイオガスが発生します。これは、自然界でも起こっていますが、バイオマス施設では、効率よく発酵を行うため、投入物の攪拌、発酵槽の加温などを行います。

○メタンガスの性質

発生するバイオガスの組成は、メタンが約60%、二酸化炭素が約40%で、その他に微量の硫化水素、水素、窒素などが含まれます。このうち、メタンは都市ガスの主成分であり、主な性質は次のとおりです。

- ・無色、無臭の気体で、空気よりも軽い。（プロパンガスは空気よりも重い。）
- ・人に対する毒性はない。
- ・燃焼により二酸化炭素と水になるので、排ガスには有害物質が含まれない。
- ・燃焼する濃度範囲が狭く、自然発火温度も高いので、爆発の危険性が低い。

○バイオマス+焼却施設導入のメリット

(1) ごみ減量化の推進

焼却処理のみの場合には、容器包装、古紙類などの資源化が進むと、水分の多い燃えにくいごみの割合が多くなり、焼却が困難に成ることが予想されます。これに対し、バイオマス+焼却施設の場合には燃えやすいごみと燃えにくいごみを分けて処

理することができます。

(2) 安定燃焼

水分の多いごみをバイオマス処理することにより、焼却するごみの熱量が多くなります。

(3) 有害物質の排出量の削減

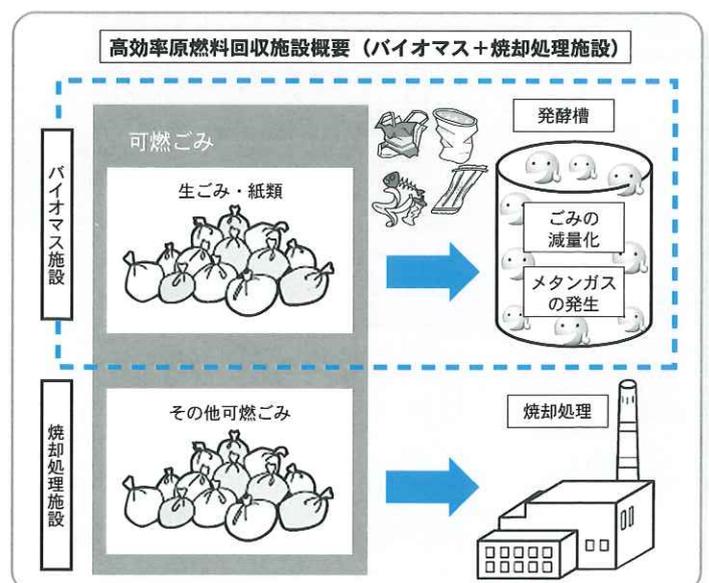
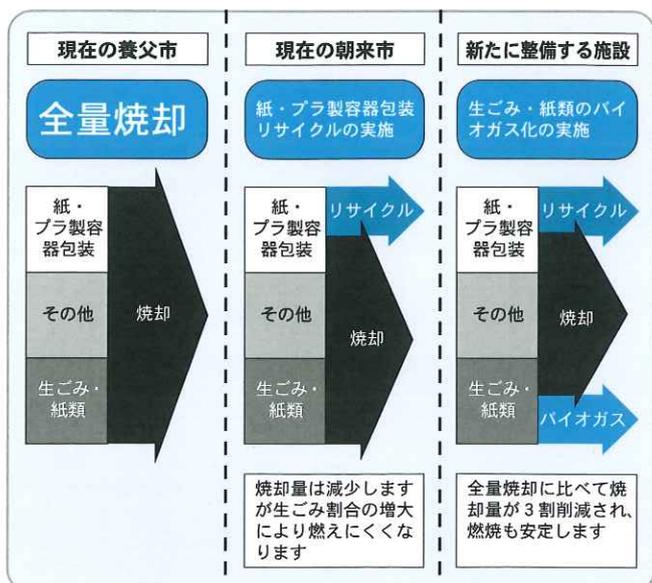
生ごみ、紙類などをガス化させることにより、焼却するごみの量を約3割削減できます。

(4) 維持管理費の削減

南但地域の施設規模では、全量焼却したとしても蒸気による発電は困難ですが、バイオマス方式を採用することにより、メタンガスを燃料とする発電が可能となります。

(5) 建設費の削減

高効率原燃料回収施設（モデル施設）とすることにより、バイオマス施設、焼却施設ともに交付金の交付率が2分の1（通常は3分の1）となり、財政的に有利となります。



ごみ処理状況の推移

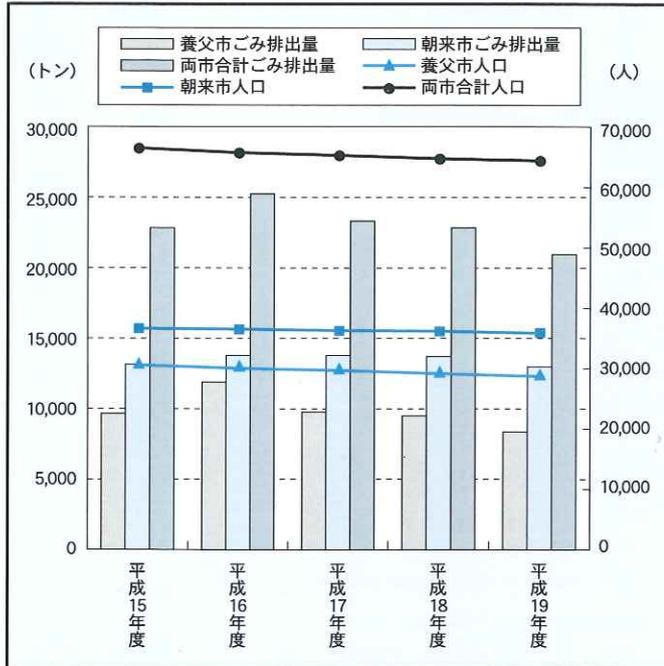
養父市 (平成19年度)

- 年間ごみ総排出量 ……8,131 トン/年
- 年間の集団回収量 ……959 トン/年
- 一人当たりのごみ排出量 ……1日 約776g

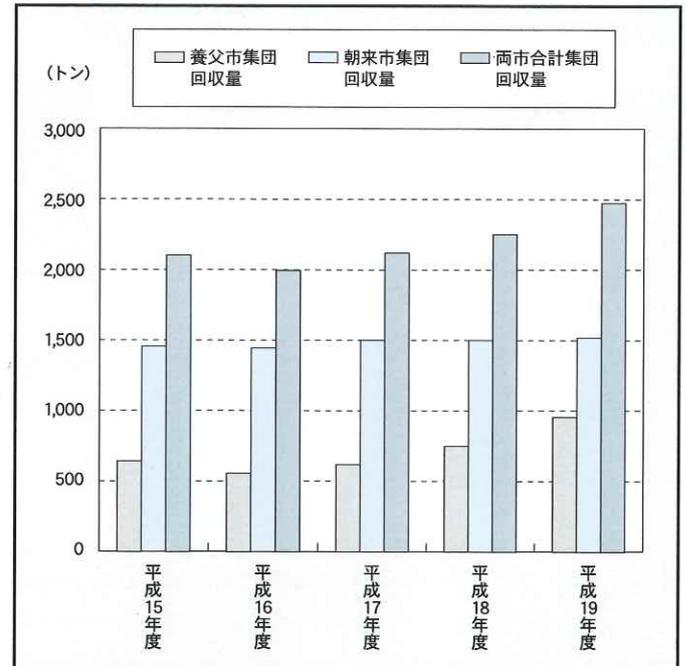
朝来市 (平成19年度)

- 年間ごみ総排出量 ……12,778 トン/年
- 年間の集団回収量 ……1,524 トン/年
- 一人当たりのごみ排出量 ……1日 約989g

ごみ排出量と人口の推移



集団回収量の推移



南但ごみ処理事業の主な経過

(平成19年12月1日から平成20年5月30日まで)

平成19年	12月 4日	第9回南但ごみ処理施設処理方式検討委員会
	12月 18日	第1回南但ごみ処理施設整備委員会
平成20年	1月 4日	広報「南広だより」第3号発行
	1月 28日	第2回南但ごみ処理施設整備委員会
	2月 7日	公害防止協定調印式 (養父地区区長会南但ゴミ処理対策委員会)
	2月 8日	第16回南但ごみ処理計画特別委員会 (組合議会)
	2月 19日	第3回南但ごみ処理施設整備委員会
	2月 20日	南但ごみ処理計画周辺地区連絡会 (朝来市)
	2月 25日	南但ごみ処理施設用地測量業務入札
	2月 29日	第93回組合議会定例会
	3月 25日	第4回南但ごみ処理施設整備委員会
	3月 28日	ごみ処理施設用地土地調査の説明会
	5月 12日	施設整備基本計画書管理者報告及び記者発表

今年度の主な業務	施設整備設計書作成業務
	土木造成実施設計業務
	埋蔵文化財発掘調査業務

組合からの お知らせ

第93回議会定例会

総額3億8千万円の 20年度予算を可決

第93回組合議会定例会が2月29日(金)に開かれ、一般会計・電算事業特別会計・休日診療所特別会計の平成19年度補正予算と平成20年度当初予算などの7議案が提案され、いずれも原案のとおり可決されました。

20年度当初予算

一般会計は、ごみ処理施設整備関連で、土木造成実施設計・施設整備設計などが、また、スポーツセンター施設では、テニスコート2面の人工芝の張り替えを予定しています。

現在、一時休診中の南但休日診療所ですが、秋からの診療再開を見込み、所要の予算を計上しました。

19年度補正予算

後期高齢者医療制度の発足に伴い該当世帯の国民健康保険税及び介護保険料が前年と同程度になるよう激変緩和措置が講じられました。このため、電算事業特別会計では、国民健康保険と介護保険システムの改修費用を盛り込んでいます。



手前の2面の芝生を張り替えるテニスコート



電算室

平成19年度会計別予算額

区分	補正額	総額
一般	△340万円	1億5,360万円
電算事業特別	897万円	2億4,139万円
休日診療所特別	△176万円	1,224万円
合計	381万円	4億723万円

平成20年度の会計別予算額と主な事業

一般会計 1億4,240万円	派遣職員人件費 9,722万円	ごみ処理施設整備費 4,713万円	庁舎管理費 163万円
電算事業特別会計 2億2,890万円	スポーツセンター管理費 955万円	テニスコート改修費 1,540万円	わかば作業所指定管理料 996万円
休日診療所特別会計 870万円	公債費 341万円	電算システム委託料 9,212万円	電算機器使用料 7,711万円
合計 3億8,000万円	電算帳票等印刷費 9,212万円	休日診療所指定管理料 740万円	医師会補助金 80万円

高金利借入金を 繰り上げ返済

昭和57年に7.3%の高利率で借り入れた借入金を繰り上げて全額返済し、61万円余の利息を節約しました。この借入金は南但休日診療所の建築費用として借り入れ、毎年105万円の元利金を返済してました。

これは、高利息の旧資金運用部資金(現財政融資資金)のうち、一定の基準を満たすものについて、繰上償還を認め、補償金(利息)を免除するという国の特例措置を利用したものです。なお、繰上償還に伴い、当組合と両市庁舎間のネットワークをNTT専用回線からケーブルテレビ回線に切り替え約1千万円の経費の節減を柱とした財政再建化計画の承認を受けました。

◎組合ホームページでもお知らせしています

<http://www.fureai-net.tv/nantankoiki/>



南但広域行政事務組合では、ホームページを開設し、組合の紹介や南但ごみ処理施設整備事業のこれまでの取り組みなどをお知らせしています。左のURL(ホームページアドレス)からご覧ください。

組合組織図

